

事業効果

檜尾川砂防ダム

事業名	大項目 (事業共通)	小項目	効果の指標等	具体的な効果等 (地域の状況等)	受益者
砂防事業	費用便益分析				
	安全・安心	○土砂災害による被害の軽減 ・人命、財産	○費用便益比 ○要因の変化	○B / C = 1.9 (事業効果費〔想定氾濫区域内施設の保全〕B = 1,216百万円 (全体事業費〔砂防ダム工1基、流路上370m〕C = 650百万円) (想定被害額は、治水経済調査要綱等に基づき、人命、一般資産、農産物、営業停止損失、公共土木施設等について算定) ○保全人家戸数 (昭和63年度) 128戸 ⇨ (平成10年度) 132戸	想定氾濫区域内住民
	定性的評価等				
	安全・安心	○土砂災害による被害の軽減	○想定氾濫区域内家屋等 ○想定氾濫区域内の重要な施設	○家屋数 約 132戸 ○農地 約 20ha ○主要施設：なし ○災害弱者施設：なし ○交通網、ライフライン等：府道伏見柳谷高槻線、市道	想定氾濫区域内住民 想定氾濫区域内住民、通行者等
	快適性 (生活環境)	○景観		○砂防ダム設置により、河床から約9mのコンクリート壁ができる。 ↓ ・砂防ダム周辺の樹木の保全、植栽等を行うので、年月が経過すれば植物が繁茂し周辺の森林景観と調和するため影響は少ないと考えられる。	周辺住民 ハイキング客等
環境 (自然環境)	○生態系への影響		○砂防ダム設置により、溪流の縦断的な連続性が途切れる。 ↓ ・砂防ダム計画位置の約300m上流には既設の治山ダムがあるため、魚類等の生息環境に大きな変化はないと考えられる。 (水生生物等については既存資料の収集を行っており、今後現地調査や対策について専門家の意見を聞き、その上で適切に対応していく。) 砂防ダムにより、溪床、溪岸の浸食が防止され、新たな山腹崩壊を防ぐ効果があるため、堆砂敷より上部の樹林を保全できる。	周辺住民 ハイキング客等	